



Chat and drinks

1/15 木
19:00 - 20:30

会場:ラクセーヌ専門店1階
北出入口横
参加者:14名

2024年度からはじめた市民ワークショップ「RAKUSAI Pub. Lab. (洛西パブラボ)」の番外編企画として、テーマごとにゲストを招いて話を聞いたり、参加者同士で語りあったりする場「Chat and drinks」を開催しました。このレポートでは、当日のゲストトークを中心に当日の様子を紹介します。

第3回 トークテーマ

公共空間をクリエイティブに使いこなす



トークゲスト

武田 重昭 さん

大阪公立大学大学院 農学研究科緑地計画学研究室 准教授
都市と暮らしのランドスケープについての研究・教育に携わる。

「昨年、ベルギーに滞在していて、そのときに洛西の話も伺っていました。洛西ではすでに様々な活動をされているとお聞きしています。今日は都市計画や造園の視点から、まちづくりのさまざまな事例を紹介しますので、活動のヒントになればと思います。」

1. 都市再生の主役は「人」

私は緑地計画を専門にしている、公園やランドスケープ、市民参加型のまちづくりを研究しています。そこでまずお伝えしたいのは、「都市再生の中心にあるのは人の営み」ということです。公共空間の風景って、何でできていると思いますか？ 樹木や芝生、水辺、ベンチ。もちろんそれらは大事です。でも、それだけでは“風景”にはならないんです。そこに座っている人。走り回る子ども。立ち話をしている高齢者。その“人の営み”が加わって、初めて風景が完成する。だから私は、公共空間は「デザインするもの」ではなく、「営みが育つ場をつくること」だと思っています。そして本当に大事なのは、その空間の中で起きることだけではありません。その公園があることで、地域ににぎわいが生まれる。コミュニティが育つ。防災拠点としての安心感が日常に広がる。つまり、公共空間は“中”だけで完結しない。周辺に波及していく力を持っています。

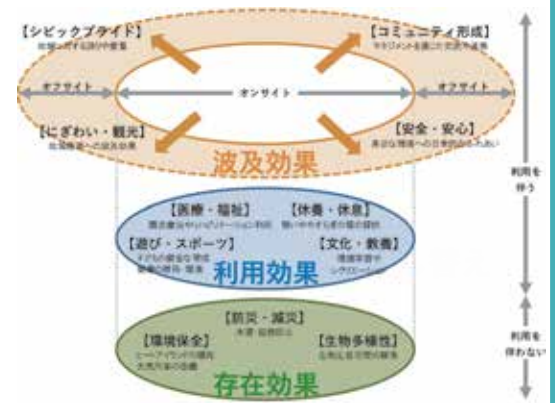


2. “ぐっとくる風景”はどうつくられるか

私は公共空間の価値を考えると、効果を3つに分けて説明しています。「**存在効果、利用効果、波及効果**」です。

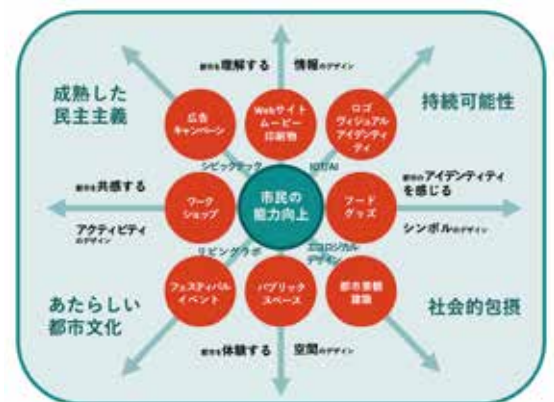
まず**存在効果**。これは、そこに空間があるだけで生まれる価値です。公園や広場があることで、景観が整い、地域に余白が生まれる。実際に使わなくても、「**あそこに場がある**」という**感覚**が、日常の心の支えになります。次に**利用効果**。人が集まり、使うことで空間の価値が高まる効果です。散歩する人、子どもが遊ぶ姿、ベンチで話す人たち。人の営みが重なることで、空間は生きた風景になります。例えば、ニューヨークのブライアント・パークでは、映画祭やヨガ、移動図書館など市民主体の活動が日常的に行われています。「**行けば何か**が起きている」状態が、人の自由な振る舞いを引き出し、**素敵な風景**を生んでいます。

そして**最も重要なのが波及効果**です。その場での**体験**が、公園の外、**地域全体へと広がっていく効果**です。「あの公園があるから安全だ」「このまちは文化的だ」という**感覚**が共有され、にぎわいや誇り、災害に対する**防災への安心感**として日常に浸透していく。日本でも大蓮公園では、市民によるマルシェや魅力発信が続くことで、**通過点だった公園**が「**関わる場所**」へと変わりました。その経験が「このまち、なんかいいよね」という**感覚**、つまり**シビックプライド**へと波及します。**ぐっとくる風景**とは、この3つの効果が重なったときに生まれるものなのです。



3. シビックプライドのその先へ

私が強調したいのは、シビックプライドそのものを目的にするわけではない、ということです。**誇りや愛着はゴールではなく、その先にある社会を支える土台**です。自分たちのまちは自分たちで育てるという意識が根づく、**対話**が生まれ、**参加**が広がり、**弱い立場の人**も包み込む力が育っていきます。成熟した民主主義や新しい都市文化、持続可能な社会は、その延長線上にあります。公共空間を育てることは、**未来の社会を育てる**ことでもあるのです。



トークのポイント

- ・公共空間の風景は「人の営み」で完成する
- ・重要なのは地域へ広がる波及効果
- ・「毎日何かが起こっている」ことが価値を高める
- ・市民主体の利用がシビックプライドを育む
- ・その先に成熟した民主主義と持続可能な都市がある



アンケートより（一部抜粋）

盛り上げなくて良い！スモールステップの意味がよくわかりました／都市計画やまちづくりをととてもあたたかい視点で知ることができた／ぐっとくる風景という言葉を知り、共感した／毎日何かがある公園を目指したい